

君をのみ思ひねにねし夢なればわが心からみつる成けり

〔安法法師集〕筑前守つねみつのきみのくだりて、九月一日の夜、夢にみえたりければ、あひおもふ  
なかなればいひやる、

夢にても夢としりせばねざめしてあかね別の物はおもはじ

〔更科日記〕おなじ心にかやうにいひかはし、世中のうきも、つらきも、おかしきも、かたみにいひか  
たらふ人、ちくせんにくだりて後、月のいみじうあかきにかやう成し夜、宮にまいりてあひては、  
つゆまどろまず、ながめあかいしものを、こひしく思ひつゝ、ねいりにけり、宮にまいりあひて、う  
つゝにありしやうにて有とみて、打おどろきたれば夢成けり、月も山のはちかうなりにけり、さ  
めざらましをといとゞながめられて、

夢さめてねざめの床のうくばかりこひきとつげよ西へ行月

夢故人

〔大鏡左大臣時平〕先坊保明親王にみやす所まいり給ふ事略、後はしげあきらの式部卿のきたの

かたにて、齋宮の女御の御はらにて、そもうせ給ひにきいとやさしくおはせし、先坊を戀かなし  
み給ふ、大輔なん夢に見奉ると聞て、送り給へる、

ときのままもなぐさめつらむ君はさは夢にだに見ぬわれぞかなしき、御返事大輔、  
戀しさはなぐさむべくもあらざりきゆめのうちにも夢と見しかば

〔今昔物語 三十一〕藏人式部掾貞高於殿上俄死語第廿九

頭ノ中將藤原實資ノ夢ニ有シ式部ノ丞ノ藏人内ニテ會ヌ寄來タルヲ見レバ、極ク泣テ物ヲ云フ、  
聞ケバ死ノ恥ヲ隱サセ給タル事、世々ニモ難忘ク候フ、然許人ノ多ク見ムトテ集テ候ヒシニ、西  
ヨリ出サセ不給ザラマシカバ、多ノ人ニ被見瞭テ、極タル死ノ恥ニテコソハ候ハマシカト云テ、  
泣々手ヲ摺テ喜ブトナム見エテ、夢覺ニケル、